



2011年2月21日

みなさん、こんにちは。『くらし展』が始まり、平日は子ども達が大勢訪れています。暖かくなったためか、半そで姿の児童も！子ども達は、元気ですね！

● 昭和のくらしを学ぼう

『くらしのうつりかわり展 -あかしさんちの一日-』（～3月21日(月・祝)）が始まり、連日、近隣の小学校の児童が昭和のくらしを学習するため、来館しています。

「正解っ！」と響く声の主は、紙芝居の阿部元則さん。今年も、阿部さんの「黄金バット」の流ちょうな語り口は健在です。14日(月)から18日(金)まで、16の小学校から1,000人を超える児童が来館し、阿部さんは40回以上の公演をされました。

そして、特別展示室とロビー展示、むかし遊びのコーナーでは、文博ボランティアの皆さんが活躍しています。「おっちゃんらが小さい頃は、電気炊飯器なんかなくてなあ」、「むかしは鉛筆けずりがなくて、肥後守(ひごのかみ)で自分でけずったんやで」などと自らの経験を子ども達に話します。

逆に、「これ(かつお節けずり)は、今でいったら何?」、「その頃はいくらで売っていたの?」など、子ども達の方からも色々な質問が出てきて、「うーん、どうやったかなあ…」とスタッフ同士で話し合うことも。

“むかしの生活”とひと言で言っても、地方によって道具の名称が異なっていたり、使い方も各家庭で違っていたりするので、すぐには分からないこともあります、スタッフが調べてできるだけ答えています。

たくさんの方々に協力していただいて、『くらし展』の見学は行われています。平日の午後3時頃までは、子ども達でにぎやかですが、一般のお客さまには、どうぞご理解をお願い致します。



特別展示室での見学風景



紙芝居の様子



ロビーの体験コーナー